

肌で感じられる風情

諏訪湖博物館・赤彦記念館 館長 宮坂 徹

下諏訪町は中心地が本当にコンパクトで、町歩きをするには最適な町です。

諏訪大社下社春宮・秋宮の門前町として形成、発展してきた町で、お明神様を中心とした歴史・文化が色濃く残されています。

また、縄文の古くから古代、中世、近世の史跡や文化財を身近に見ることが出来ます。

諏訪大社下社秋宮周辺は、江戸時代に中山道・甲州道中の二街道が合流する宿場として大変賑わったところです。日本陣を中心に、当時から旅籠が現在も旅館を営業し、風情を残しています。周辺には「諏訪湖時の儀象堂」「諏訪湖オル

ゴール博物館 奏鳴館」と、かつて産業として栄えた時計・オルゴールを紹介する博物館があります。そして、町のなかに「青塚古墳」が残っているのも見所の一つです。

旧中山道沿いには「諏訪大社下社七不思議」がいくつもみられます。すなわち、秋宮境内の「根（寝）入りの杉」、綿の湯の「湯口の清濁」（跡）、「御作田の早稲」、春宮境内の「筒粥」、裏手の浮島がそれです。道中には「歴史民俗資料館」、「今井邦子文学館」、「伏見屋邸」とそれぞれ特色ある博物館があり、灯台もと暗しではないですが是非入館してみてください。

「三角八丁」と呼ぶエリアには、町名の由来にもなる「魁塚」があり、幕末の出来事の一

つが見られます。中心街から足をのぼすと、橋には水戸天狗党との合戦の地「浪人塚」、高木には殿村遺跡の縄文時代復元住居、自ら「柿蔭山房」と命名した島木赤彦の住居をみる事ができます。一日あれば主な歴史文化に触れることができます。



中山道下諏訪宿の家並み

私が何より好きなのは、目には見えない雰囲気です。長い歴史のある地には肌で感じられる「風情」があります。下諏訪町も多くの歴史的建造物が失われた感がありますが、残された建造物などの佇まいが醸し出す歴

史文化の香りは、そうたやすく消えるものではありません。それは歴史の重みであり、我々の祖先が営々として築き上げてきた文化の証です。

みんな町を歩きましょう。ちよつと小路に入ったら、昔に迷い込むことができるでしょう。ただだまってゆつくりと深呼吸をして、漂う歴史のそよ風に素肌を晒したら、きっと今までとは違った感覚を味わうことができるでしょう。

だから私は「下諏訪が好き」。

功労者顕彰

学芸員として三十八年間にわたり永年勤続し、博物館事業に数々の功績をあげたことに対して、日本博物館協会から表彰を受けた宮坂館長。



功労者顕彰

下諏訪を知り尽くした人が語る

教育委員会からのお知らせ

「身近な講師」募集！

いきいきとした生き甲斐のある充実した生活を送るため、趣味・芸術・文化・スポーツ等、様々な分野での学習が進められています。

その学習を行うときの講師を紹介するのが「身近な講師」制度です。あなたのすぐれた知能、知識、豊かな経験を生かして公民館に「身近な講師」として登録しませんか？

社会機関、学習グループ、サークルなど町民の皆さんが学習、研修会等を行うときに、この制度を利用することができます。

登録を希望される方は、町公民館までご連絡ください。

連絡先：下諏訪町公民館 ☎28-0002



「似合う色発見」講座

園児のつがやき (みずべ保育園)

お迎えを待っている時、空を見上げて
先生「この前のお月さまと形が違っているよ」
子「そうだよ。いっぱい食べて大きくなったんだよ」
先生「お月さまは何を食べているのかなあ？」
子「くもだよ！ほら。雲は白いじゃん。だからお月さまも白いんだよ」



未満児（2歳児）さん お家でおにぎりを食べながら
子「口の中のごはんは、どこまでいっちゃうんだろう～ね～」
お家で自分のパンツをはきながら
子「神様が見てる？」
「神様が、ガンバレーって応援してる？」

MESSAGE

今年度も下諏訪町の保育園や小中学校を訪問させていただき、多くの子どもたちの言動に触れさせていただきました。その中で印象に残っていることを紹介いたします。

◇小一男児

授業最後の挨拶に、机の引き出しを引っ張りつつ起立。引き出しが床に落下し教科書等が散乱。片付けを後回しにして、授業挨拶を先にする男児。

◇保育園の年中さん

秋の日差しのもと、落ち葉の下で「あったかベッドを造ったよ」と笑顔で語る。豊かな自然の中で、友達と身体丸ごと触れ合う豊かな体験。

◇中学生の自学

各中学校では、下校後に希望者が一室に集まって学習に取り組み自学が進められています。言い出しがたい言葉の「分かりません。できません」を素直に表出できる姿に、学習の深まりと定着を感じます。

四月からまた、子どもたちのどんな成長の姿が見られるか、楽しみです。（林）

